

科目名	デッサン基礎A							年度	2025
英語科目名	Rough Sketch Fundamentals A							学期	前期
学科・学年	マンガ・アニメーション科四年制 1 年次	必／選	必	時間数	120	単位数	8	種別※	演習
担当教員	水野裕佳	教員の実務経験		有	実務経験の職種		画家		
【科目の目的】 画力の基礎の向上と、色の基本概念を理解し制作物の配色を豊かにする。									
【科目の概要】 基礎的な描画技法などを学び、描画力を高めます。									
【到達目標】 水彩絵の具などの彩色画材を使用し、鉛筆デッサンに共通する技術を習得する。 色彩の基本概念を理解し、制作するうえで配色をデザインできるようになる。									
【授業の注意点】 授業開始時に実技のポイントなどを説明するので遅刻厳禁。クロッキー帳、水彩色鉛筆、練り消しゴムは毎回持参すること。課題作品はできるだけ授業時間内で仕上げるように留意すること									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	事前の解説内容を完全に理解し、集中力を維持して作品を制作することができる	事前の解説内容を概ね理解し、集中力を維持して作品を制作することができる	事前の解説内容を半分程度理解し、集中力を維持して作品を制作することができる	事前の解説内容を理解できていない。または集中力を維持して作品を制作することができない	事前の解説内容を理解できておらず、集中力を維持して作品を制作することができない				
到達目標 B	配色効果について十分理解し、自身の作品制作に活かすことができる	配色効果について概ね理解し、自身の作品制作に活かすことができる	配色効果について半分程度理解し、自身の作品制作に活かすことができる	配色効果について理解できていない	配色効果について理解できておらず、自身の作品制作に活かすことができない				
到達目標 C	色の心理効果や概念について十分理解し、自身の作品制作に活かすことができる	色の心理効果や概念について概ね理解し、自身の作品制作に活かすことができる	色の心理効果や概念について半分程度理解し、自身の作品制作に活かすことができる	色の心理効果や概念について理解できていない	色の心理効果や概念について理解できておらず、自身の作品制作に活かすことができない				
【教科書】 色彩検定3級公式テキスト									
【参考資料】 色彩検定3級公式テキスト									
【成績の評価方法・評価基準】 授業内容の理解度をレポートを提出して評価する。また積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		デッサン基礎A			年度	2025
英語表記		Rough Sketch Fundamentals A			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	光と色①	混色できるようになるため、色のはたらきを知る	1 座学	色はなぜ見えるのか理解する	3	
2	光と色②	混色できるようになるため、色のはたらきを知る	1 座学	混色技法について理解する	3	
3	光と色③	実際にやって理解を深める	1 実習	水彩絵の具を使い、混色技法を使うことができる	3	
4	色の表示①	色の分類と三属性を知る	1 座学	色の分類と三属性を理解する	3	
5	色の表示②	PCCS色相環を理解する	1 座学	PCCS色相環を理解する	3	
6	色彩心理①	色の心理効果	1 座学	色の心理効果を理解する	3	
7	色彩心理①	色の視覚効果	1 座学	色の視覚効果を理解する	3	
8	平面構成①	実際にデザインすることで理解を深める	1 実習	色の効果を考えて絵を描くことができる	3	
9	平面構成②	実際にデザインすることで理解を深める	1 実習	色の効果を考えて絵を描くことができる	3	
10	色彩調和①	配色をを考えて制作できるようになる	1 座学	配色の基本的な技法を理解する	3	
11	色彩調和②	配色をを考えて制作できるようになる	1 座学	トーンをを考えて調和することができる	3	
12	色彩調和③	配色をを考えて制作できるようになる	1 実習	トーンをを考えて調和することができる	3	
13	配色イメージ	実際にデザインすることで理解を深める	1 座学	配色イメージについて理解する	3	
14	デザイン実習①	実際にデザインすることで理解を深める	1 実習	色の効果を考えてデザインすることができる	3	
15	デザイン実習②	実際にデザインすることで理解を深める	1 実習	色の効果を考えてデザインすることができる	3	

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等